

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102885		
法人名	(株)ベネッセスタイルケア		
事業所名	くらら門田屋敷		
所在地	岡山県岡山市中区門田屋敷3-5-20		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. ご入居者お一人お一人に沿った日常生活、健康面に注視しながら気持ちを表すことができる環境に努めています。また日頃の何気ない言葉や行動から自発性ややりがい、役割を大切にお手伝いさせて頂いています。一人の人として捉え、自分らしい生活が送れるように支援をさせて頂いております。
 2. 地域交流を目的とした活動が制限される中でも(資源回収・町内清掃・ハロウィン・餅つき等)を感染対策を行ないながら実施し、ご入居者、ホームが地域の一員としての役割を担えるよう努めています。
 3. 自社の介護技術・認知症・事故・身体拘束廃止虐待防止等に対しての研修や事例検討をおこなっています。

「ベネッセスタイルケア宣言」を象徴とする「よく生きる」を具現化したような「歌詞」が、案内された部屋の壁に貼られているのを見つけて、私達はこのホームの理念と、ここで心豊かに過ごされた作者の心を想像して胸一杯になった。数年前の利用者の作品で、題はないが「ドッコイショ音頭」といった感じ。さすが、伝統あるホームだと思った。県南では逸早くこの地にグループホームを立ち上げ、門田屋敷という特異な地域性の中で理解を得、つながりを得る為の努力を重ね、今日の「くらら」を築きあげてきた。時々訪問させていただいた私達も、各利用者のあらゆる場面でその人らしいエピソードを思い起こしている。例えば身体に不自由さを持つ人も、りんとした対応で私達に接して下さった。「『くらら』ならではの事」と思い続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様と従業員の「よく生きる」を実現する為に「ベネッセスタイルケア宣言」を従業員と年1回研修を実施。ベネッセスタイルケア従業員として「5つの行動宣言」「10の行動基準」にて自分が入りたいホームであるかまた、自分の親や大切な人を任せられるホームか日々考えた行動をしております。	利用者・家族に加えて、毎月共に過ごす職員も含め、「自分らしさ・その人らしさを失う事なく幸せに生きて欲しい」との理念を常に考え、意識し合いながら日々を送るように努力している。	理念の共有や実践につなげる為に、例えば「よく生きる」の具体例を研修の時だけでなく日常の暮らしの中で事例を話し合ったり、何かのノートに記録してみても良いかもしれない。具体的な事例を話し合う事で、より一層理念を共有出来ると思う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中地域の方との日常的な繋がり、訪問して頂く事は出来ていないが散歩中にご挨拶を下さる方、ホーム敷地内に設置したベンチでくつろいで下さる方や「夜鳴きラーメンの会」や「ハロウィン」「お餅つき」など恒例行事について今年はしない？楽しかったね。とお声を頂いている。	地域とのつながりは常に重視してきたが、コロナ禍の為縮小せざるを得ない状況となっている。しかし、ホームの廊下には子供会との交流の証が見られたり、近所の方からの好意が届いたり、道路に面した所に置いたベンチに座って話しかけてくれる等、楽しい交流がある。	目標達成計画の4番目に「地域との交流や貢献に努力したい」との課題を掲げているが、このホームの歴史と地域性から鑑みると、今までも色々な工夫を重ねてよく努力をしてきたと思う。現在の土台を基にして少しずつ前進して下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流講座・椅子ヨガや毎月1回の認知症カフェ「おだんごカフェ」、認知症サポーター養成講座等の開催がコロナ禍の中実施出来ていない。掲示板の発信、資源ごみ回収の協力等、今出来ることをおこなっていききたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため実施出来ていない。ホームの取り組みや運営状況をお手紙の形でお渡しお知らせさせて頂いている。メンバーの町内会長様、民生委員様、老人会会長様がホームの事を気にかけて下さる。	コロナ対策の為、止む無く書面を通して情報提供を中心とした取り組みを続けざるを得ない状況となっている。但し、必要な件については関係者と連絡を取り合ったり訪問し合う等、解決させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市事業者指導課へは運営推進会議の代替としてホームの取り組みや運営状況をお知らせしたり、事故報告等で連絡を取っておりますが、コロナ禍だからこそもっと密な連絡を取っていく必要があると感じる。	今まで経験した事もない非常時という状態で、行政関係からの指導や指示が多くなっている。このホームに関する特別な問題は今の所見当たらないが、ホームとしては緊張感を持って市町村との連携を取ろうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置して毎月1回、セルフチェックを元に具体的な行為について振り返り、議事録を残すようにしています。時間を掛けじっくりと話し合うことが出来る場を意識しています。	身体拘束が必要な対象者はいないが、身体だけでなく心の拘束につながるかもしれないケアについてもセルフチェックをしている。常に利用者の立場に立ち、その人の心理を推測して対応するように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6番同様に毎月1回、セルフチェックを元に具体的な行為について振り返り、時間を掛け話しています。小さな事でも話し合える環境を意識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度について玄関へパンフレットを置き、ご家族様へ活用出来る様案内をしております。活用の際にはサポートさせて頂いています。また、権利擁護に関してはスタッフに虐待防止の基準説明と合わせて簡単に説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせをおこない、お話を伺えるよう環境と時間を作り、説明をさせて頂き、疑問点もお聞きするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、運営アンケート調査を実施して意見を頂いた所は懇談会にて説明、次期運営計画としてあげていくようにしています。2019年度、2020年度と運営懇談会は中止となっているため、毎月のお手紙や必要に応じてお電話させて頂いたりしております。コロナの中ご家族様が少しでも安心出来るよう家族支援含めた関わりを大切にしています。	一人ひとりの利用者に対してはもちろんの事、このホームの職員は家族に対しても個別面談や「くらしの便り」「アンケート調査」の他に、日常的なつながりを大切にし、本人・家族の声に耳を傾けようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回定期面談を行なっている。また、日常の会話からも意見や提案を聞き反映している。ホームについての運営アンケートを実施、アンケート結果についてスタッフ全員で振り返り、意見を聞きながら次年度へ向けた計画を図ります。	日頃の生活の中でもミーティングの時も、管理者が若く職員の言い分に耳を傾けようとする姿勢が伺われるので、今後もホームの運営は目標に向けて着実な成果をみる事になるだろう。職員間に「和」の雰囲気を感じられる。	職員間の意思疎通はよく出来ているが、綿密で分かり易く書かれた「申し送りノート」が大いに役立っていると思う。このノートをさらにレベルアップさせて、伝達の役割だけでなく、ちょっとした提案や感想等も書いてもらおうと貴重なノートになると思う。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は大阪を拠点としているが日頃より相談できる環境であり、毎月の確認会、また年2回の評価実施の中で、個々の働き方ややりがいに繋がられるよう努めている。また、育児休暇、介護休暇等の働きやすい環境や条件の整備を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での認知症、介護技術、事故の再発防止、看取り、緊急時対応、常勤・非常勤の入社時(3カ月、8カ月含め)を実施しております。コロナ禍のため法人以外での研修を受ける機会が確保出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年近隣施設と勉強会や季節行事、防災訓練等を通して交流を図っていたが、現在実施が難しい。ここ数年、岡山エリア4ホーム(同法人)では、認知症カフェの運営、合同のど自慢大会、夜鳴きラーメンの会等々活動を共にする機会増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前のアセスメントの際にはご家族様やご本人様よりご入居後安心して継続した生活が出来る様、背景やお好きな事、大切にしたいこと等お話を伺わせて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至った経緯を伺いご家族様の思い、ご要望を知る事が出来るよう努めご入居者の「お一人お一人が安心して暮らしていく為には」についてお話をさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントから見えてくるニーズを重点サービスとしてあげる事で個々に沿ったサービス、必要な支援について見極め、必要に応じ変更、追加を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の背景や日々の生活の中の何気ないエピソードに重きを置き、ご本人の持つ力を大切に「共に生きる」「やりがい、自発性」を大切にできるようなケアの統一を図っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、会えないご不安、寂しさが少しでも和らぎ、絆が途絶えることのないよう毎月の「家族レター」「くらし便り(写真入り)」の中で普段の何気ない日常から誕生日や行事など特別な瞬間の表情、ご様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が要望されたり会話の中からヒントを頂いたりとホームで情報共有し支援に繋がられるよう努めているが現在コロナ禍の中、具体的に実現することが難しい状況となっている。しかしながら、時世に合った関係継続の支援を行ってゆく必要がある。	コロナ禍の中では、従来通りの面会が難しく、今は時間を制限して安全対策を取ったうえで、家族等と面会してもらっている。リモート面会等も考えたが、様々な理由からここでは現実的ではなく、便りを充実させていると聞いた。馴染みの関係が途切れないようにいろいろな工夫をして継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフはご利用者同士の関係性を把握し、その時々々の関係性を鑑みながら個別支援や集団を通しての関わりを大切に、それぞれが支え合って生活できるよう支援に努め円滑なコミュニケーションが図れるようにサポートさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も、必要に応じて相談・支援を行っております。また、退去後にご家族が訪ねて来て下さることもあり、近況などお話をお聴きしています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族のお話の中から、お一人お一人のこれまでの暮らしや背景、大切にしてきたことを知り理解を深めることを大切に、日々の何気ない瞬間の中で自己決定、選択、自発性に重きを置けるよう取り組んでいます。	「一人ひとり生活歴、生活習慣が違うので皆同じではなく、その人のしたいと思う事を応援している」と、職員が語るように、その人らしさ、自分らしさに深く寄り添い、「出来る事・したい事」等を見極め、本人の思いを大切にしながら自発性を重視した支援に取り組んでいる。味噌汁の味見、習字をきれいに書く、料理の手伝い等、今出来る事の役割があるのも嬉しい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前からのご様子や生活歴をご本人、ご家族様からの情報を聴き取り、過去のお写真や日々の生活の中での何気ない会話の中から知るよう努め、知り得た情報を職員間、ご家族様と共有しご本人へのケアに活かせるよう努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりについて毎月のケアミーティング(全体ミーティング)、プランミーティング等での情報共有、検討からご本人の現状の把握をおこなっています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにおいて検討・評価を行い、主治医又はご家族様へは電話や訪問の際にご相談させて頂きながらプランを作成している。その方がよりよい生活を過ごす事に重視した支援計画の作成に努めています。	生活プラン(基本サービス)の他に重点生活プランを作成し、一人ひとりに合ったニーズを捉え、自分らしい生活が送れるような支援に努めている。定期的にアセスメント・モニタリングを行い職員間でよく話し合いながら現状に即したケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りにて情報を共有しケアの変更を担当者を含めケアマネと連携を図っています。必要に応じて理学療法士・看護師等専門職との連携を図っています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談しながら出来る範囲で調整を行ない取り組ませて頂いている。「○○したい、したくない」の心の声を拾い現実的に実行していくことで、ご入居者の笑顔、喜びに繋がると考え取り組んでいます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中でご本人様が望んだ暮らしが出来る様に支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医により月2回～4回の訪問診療を実施している。かかりつけ医と協力医と共に連携を図りながら適切な医療を受けられる様に支援をしています。	従来のかかりつけ医を受診する人、ホームの協力医を主治医とする人等それぞれだが、毎月1回必ず家族と受診している人もいる。利用者毎の病状や状態把握は往診ノートや歯科ノートの記録等で共有している。今は訪問看護が必要な人はいないが自社のエリア看護師の訪問もあり、相談出来るので心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関・各主治医の看護職員へ連絡をしてご入居者様の変化や気づきを相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している。また自社のエリアを統括する担当看護師との連携も深く、相談できる環境にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には主治医の紹介状と合わせて介護サマリを病院へ報告しています。入院中、退院時は他職種との合同カンファレンスで情報を共有し、安心して生活が送れるよう協働しています。やり取りの中でお互いの顔やグループホームであることのご理解を得られています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と協力医療機関及び主治医と連携しホームで出来る事出来ない事を説明して理解を得ながら看取りをさせて頂いております。またどのような過ごされたいか出来る限り深く話し合い支援できるよう努めています。そしてご本人が少しでも苦痛なく、またご家族のグリーフケアとなるよう努めています。	これまで数多くの看取りをしてきたが、今年はいまだに経験した事のない様な葬儀だったと聞いた。家族の希望により、故人が好きだった歌を参列していた職員がギター演奏し皆で歌って見送るというサプライズをしたそう。また、家族に縁が薄くてもその人を想う人々が集まり見送った心温まる葬儀もあった。グリーフケアも家族と話し合っているとの事。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度の緊急時対応研修や入社時、その他ご入居者のご状態に合わせて実施。専門職を招いての勉強会をおこなうこともあります。また事故の再発防止の勉強会等実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回。夏季、冬季、(内1回は夜間想定)で防災訓練を実施しています。災害時の対応については、定期的な備蓄品確認、整理をおこなっています。	定期的に行っている消防訓練では、非常口の確認や出火を想定して水消火器を使用した訓練をしている。今年は防災訓練に向けて倉庫に置いてある災害備蓄品の整理をした。食品の他、停電時等にもすぐ使用出来る様々な備蓄品の期限確認や地域の人等にも分かるように改めて整理整頓した。	現在は使用していない元居室を倉庫代わりに使用し、私達も数々の備蓄品を見せてもらった。有事に備え万全の態勢を整える一方で、ホーム以外(地域の人等)も視野に入れた災害対策に改めて感心した。これからも地域との連携をしっかりと整えて下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年1回年次研修として「プライバシー保護」「情報セキュリティ研修」を受け、意識した取り組みを行っている。また、毎月の虐待防止委員会においてもプライバシーについて話し合っています。	“自分が言われたり、されたりして嫌な事はしない”をモットーにして、特に共有スペースでは、声かけする時も言葉を変えたり、職員間で伝達しないようにしている。また、各居室にトイレ設備があるが、介助する時にはタオルを掛ける、戸を閉める等、羞恥心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から見られる表情や行動を洞察しながらご本人様が選択できるよう、意思を表現しやすい声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の思い、ご家族様の思いを柱にその時の状況を考慮しながらご本人様が納得のいく形で支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意向を伺いながら保清と気候に合わせた服装の提案をしていき支援をさせて頂いています。また季節行事や日々の身だしなみから、喜びや活気が生まれるような場面を大切にしています。月1回訪問理美容あり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食の日」として、作って食べるだけではなく、食材に触れたり、季節の野菜や果物を感じて頂きながらご入居者と職員と一緒に準備、調理を行っています。	系列会社のパレット食になってホームで食事を作る機会は減ったが、時には全部職員が手作りする日もあり今日の昼食は手作りカレーだった。月2回の「食の日」は、ハンバーグ、お好み焼き、ピザ等々を皆で作し、利用者もエプロン姿でお手伝いしている写真を確認出来た。また、本人が食べやすいスプーンや食器を選んでる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録し、嗜好によりお食事が摂れない場合は補食を用意したりしています。水分補給は不足しないように注意しています。水分量の把握の必要な方は記録に記入しています。個々に沿ったバランスを意識しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいの声かけと共に歯みがきを含めた口腔ケアのお手伝いをさせて頂いたり、必要に応じて義歯管理もさせて頂いています。また、訪問歯科を利用しながら、衛生士からの口腔ケア指導助言を受けながらケアにあたっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の表情や行動を読み取りお声掛けを行うと共に定時誘導にてトイレに座る習慣をつけて排泄を促がす支援を行っています。	今は排泄が自立で布パンツで過ごしている人は1名であり、紙パンツにパットの人が大半を占める。一人ひとりの排泄の状態をよく把握し、個々に適した排泄用品の種類やコスト面等も職員間で検討し、快適に過ごしてもらうようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人様の排便状況を把握し水分補給やお食事量、服薬等を見ながら運動を促がすと共に飲み物や食品に配慮しています。生の果物や手作りヨーグルト・粕汁やきな粉等工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるがご本人様の意向をお聞きしてから意に添うように案内をさせて頂いています。(入浴前の健康チェック(発熱や血圧)で入浴出来ない事もあります)また、ご家族様のご意向も取り入れて支援させて頂いています。	重度化も進んできて浴槽に入れる人よりシャワー浴の人が多くなってきた。入浴日もその人の状態に合わせて週2~3回と柔軟に対応している。コミュニケーションを取りながら楽しく入浴してもらう事を心がけ、菖蒲湯や柚子湯をして季節感も満喫してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居前の生活パターンを崩すことなく又生活のリズムをつけて暮らす事で眠れる様に支援している。眠剤の服用には主治医・ご家族様やご本人様と相談しながら個々に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状や処方内容を理解し、症状の変化等ないか日々確認に努めている。薬剤師との連携や協力体制が出来ている。又、服薬支援では誤薬の防止に与薬手順を決め、適宜飲み方などの見直し、検討をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	環境の中に様々な物をちりばめ、自発性の瞬間を見逃さず、ご本人がやりたい事、興味を持たれた事を軸に支援に努めています。感謝の言葉をお伝えし共感することを大切にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年実施していた外出や外食が行えない状況で実施できていない。 ホーム敷地内の庭や畑での活動を増やしながら模索しています。	訪問した時、庭先に置いてあるベンチがすぐ目に入った。コロナ禍になってから元大工だった利用者と一緒に組み立て外に置いたとの事。これまでのような外出は出来なくなったが、天気の良い日には外気浴や日光浴に大いに役立っている。近の花屋さんに散歩がてら花を買いに、町内に回覧板を持って行く、家族と受診や外食に等、気分転換を兼ねた外出もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や病院受診の際などはお預かり金からお支払いをホーム側でさせて頂いているが、可能な範囲でご自身で支払い、おつりやレシートを受け取る場面を設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話をかけたりご友人と便りが出来る様支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様の安全性を考慮して季節を感じていただける様、また居心地よく過せるように配慮しています。	リビングに一歩入ると、お雛様がお出迎え。ハロウィンも近所の人から声がかかり実施したと聞いた。季節ごとに彩られるリビングの様子は写真からも確認出来た。大きな窓からは庭の花壇や菜園が見渡せ、玄関先の花壇にも春の花が咲き誇っている。ゆったりとした共有空間では毎月のスケジュール表に基づき各種のアクティビティを楽しんでおり、団樂の場となっている。	来年12月で25周年を迎えるホームなので、建物は老朽化してきているが、利用者、職員が気持ちよく過ごす事が出来る環境作りに努め、環境美化に力を入れている事が、季節の花が咲き誇る花壇や清潔な共有空間を見てもよく分かる。これからも知恵と工夫で頑張ってください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の安心できる環境、居場所の視点から決まった席、場所がある場合や、臨機応変に移動するなどその時々状態や状況に沿いながら空間作りをおこなっている。窓際のソファやリビングにベッドを置きくつろげる空間を大切にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し安全に配慮しながら馴染みの家具や生活用品を持ち込まれて工夫をしているが認知症の状態により生活用品を置かない方が良い方もおられます。	洋風の居室、和風の居室があり、どちらも掃き出し窓になっていて採光も明るい。馴染みの調度品や家具を持ち込み、飾ってある写真や展示物を見ても家族の思いが伝わってくる部屋が多く、その中でその人らしく、自分らしさを発揮しながら自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部は皆さんが馴染んだ生活空間をあまり変化を付けずにシンプルにしています。居室では皆さんが混乱を招かないように物の位置に配慮しています。		